

たゝ。いゝゝゝい、／＼いゝゝゝい。／＼ゝゝBCDEに／は
Eは、／ゝゝBCDEし／ゝゝABCDに／いゝゝゝい。／仕舞ふ
BD仕舞／よゝEなし／宜い〃CD宜／とゝEと、／止めて〃CD止て
ゝゝCDEこ／るゝゝABCDあるがEがあるが、／ハゝABCD Eは
うまれつゝAEなし／やうものゝAやうぶものBCD Eやうなものゝ
Eう。／ゝゝABCD Eが／ゝゝABCD Eか／ニゝABCD Eに／ゝゝ
ABCD Eに／でゝEで、／ニゝABCD Eに／ハットゝEハット／ゝゝ
ABCD Eに／安心決定〃BC安心決定〃D安心決定〃E安心決定／ゝゝ
ABCD Eし／ゝゝCDEこ／るゝゝABCDがあるEがある。／ハゝ
ABCD Eは／ひゝEひ、／ゝゝABCD Eに／りゝEり、／もゝEも
／ゝゝABCD Eに／ほどゝEなし／ゝゝハゝABCD Eには／決〃BC
決〃D決〃E決／ぬゝEぬ。／決〃BC決〃D決〃E決／おゝゝBに〃CDお〃E
なし／ない、ゝゝゝゝEない。／お〃〃Bに〃Eなし／いゝゝゝゝい。
／矧〃BCDE矧／同士〃BC同士〃D同志〃E同志／ゝゝBCDEし／い、
ゝゝゝゝ、BCDい、Eい。／ツヒヅ〃BCツイゾ／つかみや〃BC Dつか
みあEツカミヤ。ゝゝABCD E、／。ゝゝBCDなしE、／ゝゝCDE
こ／ちよいゝAちよいEなし／ない、ゝゝゝゝEない。／ハゝABCD
Eは／ゝゝBCDいEい。／ゝゝABCD Eに／でゝEで、／ハゝABCD
Eは／しゝBCD Eじ／からだゝEなし／ニゝABCD Eに／ゝゝCCD
Eこ／なひ。ゝゝゝゝゝゝ、BCDない、Eない。／ゝゝABCD Eが／前
E前、／ニゝABCD Eに／ゝゝBCD Eい／はうたうものゝAEなし／
がらつてゝAがあつてBCDがあつてEがあつて、／ゝゝABCD Eが／
ゝゝABCD Eに／ずゝEず、／。ゝゝABCD E、／ハゝABCD Eなし
／ゝゝABCD Eが／ど〃〃AEなし／ゝゝABCD Eに／ニゝABCD
Eに／なまいきゝAEなし／凡ゝAE風BCD風／ゆる〃D故Eゆゑ、
ハゝABCD Eは／ゝゝCDEこ／ぬゝEぬ、／チャント〃DチャンとE
チャント／正座〃BC正座〃D正坐／置いてゝA置いて〃D置いてE置
いて、／すゝしゝABCD Eすこし／ゝゝつゝBCDいつEなし／ハゝAB
CDEば／肝〃A臍BCDE肝。ゝゝABCD、／てゝEて、／かた
ゝゝAEなし／てゝEて、／くゝゝBCDくゝ／選つたゝBCD選たゝゝ
CDEこ／るゝゝABCDがあるEがある。／其とき〃BC其時〃D其時
／てゝEて、／コリヤゝEコリヤ／ゝゝBCD Eい／たゝEた、／おれ
BられEなし／、〃Dなし／ニゝABCD Eに／もちら〃BCDこつちE
こちら／仕掛けた〃D仕掛るゝゝとハゝABゝとはCDEことはゝ
BCDにEに、／ハゝABCD Eは／ニゝABCD Eに／たとゝDたゝと
／てゝEて、／ゝゝABCD Eか／心地〃BC心地〃D心持E心地／ゝ
ゝABCD Eが／てゝEて、／ゝゝABCD Eに／ゝゝCDEこ、／ゝゝA
BCD Eが。ゝゝBCD、／くせゝEなし／ハゝABCD Eは／噁舌り。

めて居ました一よしなさい馬鹿々々しい此中津は居る限りはそんな愚論をまてても役よ
立つものでない不平があれば出て仕舞ふが宜い、出なければ不平を云はぬが宜いと毎
度止めて居たよとがゐるが是れハマア私の生付きの性質とでも云ふやうものでせう或
喜怒哀楽は頭は「A」Eにノ頭「E」顯時私は何も漢書を読む中ニ喜怒哀楽は頭さずと云ふ一句を讀で其時ニ
ハツト思ふて大よ自分で安心決定したよとがゐる「是れハドウモ金

言だと思ひ始終忘れぬやうよして獨り此教を守りソコ誰が何と云
て賞めて呉れても唯表面うはへに程よく受けて心の中こころにハ決して喜ばぬ又何と輕蔑されても
決して怒らない、どんな事があつても怒つた事はない矧や朋輩同士で喧嘩をまたと云
ふことは只の一度もない、ツヒゾ人とつひぞとあひまとあひまと。打つたの。打たれたのと云ふよと
は一寸ちひともない、是れハ少年の時ばかりでない少年の時分から老年の今日に至るまで
私の手ハ怒に乗して人の身体ニ觸れたよとはない。所ところが先年二十何年前塾の書生ニ何
とも仕方のない放蕩者はうたうものがゐつて私わたしが多年衣食を授けて世話をして遣るはなも拘はらず
再三再四の不埒ふち。或るときハ其者そのひとが何處どこに何をしたか夜中酒ニ酔て生意氣な尻しりをして
帰て来たゆゑ貴様ハ今夜寝るよとはならぬ起きてチャント正座して居ると申渡して置
いて少して行て見ればバグウぐうくく躬みづかをして居る。此不埒者めと云て其肩の處をつらまへ
て引起して目の醒めてるのを尚ほグンくぐんゆたぶつて遣つたよとゐる其とき跡で獨
り考へて「コリヤ悪い事をした乃公は生涯、人ニ向て此方から腕力を仕掛けたやうな
ふとハなかつたよ今夜ハ氣ニ済まぬ事をしたと思て何だ坊主が戒律でも破たやうな
心地こころがして今いまも忘れるよとゑ出来ません。其癖私ハ少年の時から能く噤舌しんげり。人
並より口数の多い程ニ噤舌しんげつて爾うして何でも為るよとは甲斐かひなくしく遣つて決し